

横浜市歴史博物館

平成6年3月

第4号

開館準備ニュース



横浜市歴史博物館（平成6年1月、広角レンズで撮影）

横浜市歴史博物館竣工

（平成7年1月開館予定）



博物館入口



常設展示室前の廊下

エントランスホール



●新刊発売中

（表示価格に税込み）

江戸時代の神奈川

古絵図で見る風景

神奈川近世史研究会編 A4判・一〇八頁 定価三、九〇〇円
国絵図や村絵図を始め、街道絵図・名所案内絵図など、様々な目的で作られた八〇点余の絵図をカラーで紹介、絵巻や浮世絵等関連する絵画資料も多数収録し、近世神奈川の歴史を照射する。

横浜のくすり文化

洋薬ことばはじめ

杉原正泰・天野 宏著 有隣新書49 定価九五〇円
洋薬に将来を見た薬種問屋の挑戦など、開港地横浜に展開された薬文化に関する事象を掘り起こし、その原点を明らかにする。

神奈川のふみくら

特別コレクション要覧

神奈川県図書館協会編 B6判・一六〇頁 定価一、九〇〇円
県内六二の公共・大学・機関図書館が所蔵する二七の特別コレクションを網羅し、内容、収集者、各種データなどを紹介する。

有隣堂

〒231 横浜市中区伊勢佐木町1-4-1
電話(045)261-1245 振替横浜3-203

開館へのあゆみ(4)

平成6年1月3日(16日) 助横浜市ふるさと歴史財団が後援した「江戸時代の神奈川」展が有隣堂ギャラリーにて開催される。
平成6年2月28日 横浜市歴史博物館竣工。
平成6年3月14日 横浜市歴史博物館、横浜市へ引渡し。
平成6年3月18日 市会において「横浜市歴史博物館条例」議決。
平成6年3月23日 財団平成5年度第2回評議員会。
平成6年3月25日 財団平成5年度第2回理事會。
平成6年3月31日 横浜市歴史博物館開館準備ニュース、横浜市歴史博物館「横濱の歴史をたずねて」を横浜高島屋にて開催。

編集後記

開館へのあゆみでご紹介したとおり、平成五年度の年度末は、建物の竣工、引き渡し、博物館条例の制定、プレ企画展の開催と続き、博物館にとって大きな節目の時期となりました。また、条例が可決されたことにより、名称も「横浜市歴史博物館」と決定しました。これにより、開館準備ニュースの名称も本号から「横浜市歴史博物館開館準備ニュース」となりました。いよいよ開館が現実の日程として感じられます。改めて気を引き締め、開館へと向かって行きたいと思ひます。

横浜市歴史博物館開館準備ニュース
第四号

●発行/平成六年三月三十一日

●編集

財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
〒231 横浜市中区万代町一―二―四
電話〇四五(六四一)二二〇四

野外施設の概要

横浜市歴史博物館の隣には、歴史博物館と一体的に活用していただく野外施設を歴史公園（約6.6ヘクタール）内に設置します。現在、平成八年度のオープンをめざして、整備を進めています。

野外施設の内部には、国指定史跡大塚・蔵勝土遺跡（昭和61年1月指定）があります。遺跡からは、外敵の侵入を防ぐための大きな溝をめぐらした弥生時代のムラ（環濠集落）のあとと、ムラ人たちの墓地（方形周溝墓）が、ほぼ完全な状態でみつかりました。それぞれ当時の状態がわかるように、住居や墓などを再現します。その他、江戸時代の農家を復元したり、体験学習のための広場を設ける予定です。

歴史博物館から野外施設へは、歴史博物館の屋上から歩道橋をとり、直接行き来ができるようになります。野外施設がオープンすると、歴史博物館との一体的な活用が可能となり、横浜の歴史をより多様な面から楽しめるようになります。



文化財情報利用システムの概要



Q&Aシステムの画面

横浜市歴史博物館の大きな仕事の一つに、博物館で收藏している資料や市域の文化財に関する情報の管理や公開があります。博物館では、この業務を円滑に行うために、「文化財情報利用システム」というコンピュータを用いたシステムを計画しています。

このシステムの目的は三つあります。第一は博物館の収蔵資料や市域の文化財のデータベース化、第二はデータベース化した情報をわかりやすく市民の方に公開すること、第三は他の類似機関との情報のネットワーク化です。ただし、第三の目的については、関連の諸機関との調整をふまえて、段階的に進めていく予定です。

システムの構成は情報系システムとAV（オーディオ・ビジュアル）系システムに分かれます。情報系システムは、ホストのコンピュータに収蔵資料や文化財資料の情報を取り込み、文字及び画像を媒体に、いくつかの方法で情報を公開するものです。AV系システムは歴史や文化財のビデオ番組を公開するものです。

情報系システムは、さらに次の六つのシステムに分かれます。(1)館内収蔵資料管理システム。博物館内及び将来的には財団管理施設の収蔵資料を管理するもので、原則的には非公開のシステムです。(2)図書文献管理システム。博物館の収蔵図書類を管理・検索するシステムで、館内の図書閲覧室で利用できます。(3)文化財簡易検索システム。市域の指定文化財と博物館収蔵の優品資料を画像と簡単な解説で紹介するもので、エントランスホールとスタディサロンで利用できます。(4)Q&Aシステム。質問に対する回答という形式を用い、歴史や文化財の情報をゲーム感覚で提供するもので、やはりエントランスホールとスタディサロンで利用できます。(5)外部データベース利用システム。他の類似機関のデータベースをパソコン通信を用いて館内で検索することができるよう、図書閲覧室で利用できます。(6)データベース公開システム。博物館のデータベースを他の類似機関へ公開するものです。(5)と(6)のシステムは、先に示した他の類似機関との情報のネットワーク化を達成するためのシステムです。

AV系システムで見ることのできる番組は、市内各区の歴史、市内の指定文化財の紹介、市内の民俗芸能・行事、日本の歴史などで、番組の数は毎年増やしていく予定です。映像コーナーとスタディサロンで利用できます。

コンピュータというとかく難しい印象がありますが、これらのシステムは画像やビデオを多く用い、利用者に親しみやすいものを目指しています。このシステムの利用で、多くの方に横浜の歴史や文化財に対する理解を深めていただければ幸いです。



次へ やめる

Q&Aシステムの画面

大好きなまち だから、 よく知りたい

百人一首かるた永世クイーン
ふみえ
渡辺 令恵さん



生まれは東京の品川ですけど、旭区の二俣川に越してきて、二十年以上たちます。横浜に来たときの印象は「緑が多いな」。すぐ近くに、草や木がいっぱいのことも自然公園があって、自分の庭みたいにならしたので、ここに越してきてよかったと思いました。

あのころから見ると、横浜もいろいろ変わりました、家やビルも増えて。この先もまだまだ変化しそうですね。泉区の緑園都市はうちから近いんですけど、あの辺は夢のような都市になるのかな、と感じています。

このまちに残る歴史の跡にもひかれます。関内周辺の異国情緒、赤レンガの建物…。あちこちに魅力的な味わいがあるので、私は横浜が大好きです。友達ともよく話すんです、「結婚してもここに住めたらいいね」って。

かるたの試合で全国を回っていますが、どこに行っても「一度、横浜に遊びに行ってみよう」と言われます。みんながあこがれる横浜について、もっといろいろ知りたいので、新しくできる歴史博物館には、ぜひ行こうと思っています。横浜の二万年の歴史を紹介する、というのは、すごく興味が湧きます。

できれば博物館が近くで、かるた大会が開けるといいんですけど。それは無理でも、全国の友達が来たら、案内したいですね。

私は十歳のとき、父から競技かるたを教わり、六年前に初めて、かるた女性日本一のクイーン位を取りました。大好きな横浜の人々から「地元から出たクイーン」として愛されるよう、これからも頑張るつもりです。

(談)

歴史散歩の ハイライトに

横浜郷土研究会副会長

秋山 佳史さん



私どもの研究会は、こよなく横浜を愛し歴史を勉強する者の集まりです。古文書や近現代などのジャンルの部会に分かれて地域に密着した、市民史の調査研究を心がけています。資料を見ますと、先人の涙ぐましい努力を感じるときがあります。

例えば街道の宿駅。明治維新からがらりと変わる、宿駅が廃止されて鉄道が敷かれた変革期にも、たいしてへこたれた様子もなく乗り切っている。そうした民衆のエネルギーがどこにあったのか、非常に興味がありますね。それを知る手がかりは、一通の文書や一冊の日記のなかにもあるような気がします。

市民の側から見た歴史を引き出せるようなものが、博物館の展示資料のなかにあるといいですね。一点の展示物のなかから、いろいろ

ろなことを読み取ることができないのではないかと思います。

研究会では歴史散歩も実施していますが、コースのなかのハイライトとして歴史博物館を組み込みたいと考えています。歴史散歩では参加者相互の一体感が大切ですが、博物館は、展示を見ることが一体感が生まれやすいので格好の場所だと思います。展示を見て、そのなかに参加者の智識や体験が重なればもうこれは最高。

早くオープンしないかと待ち遠しいですね。

(談)

歴史に興味を もつきっかけ づくりに最適

戸塚小学校校長・横浜市小学校社会科研究会会長

金子 禎さん



わが校では、六年生になると三殿台遺跡に見学に行きますが、外へ出て実物を見たり触れたりすることが、いちばん子供の興味・関心をひきますね。今まで見学できるのは三殿台だけでしたから、横浜市歴史博物館にはとても期待しています。意欲を盛り上げるのにたいへんよい施設だと思います。隣接する大塚遺跡のほうも、早く公園として整備されるといいですね。

これまでの小学校の歴史学習は、教室の中だけの、子供にとっては受け身の授業が多かったように思います。しかし平成四年度から、子供が自ら獲得する知識を重視した学習指導要領に変わってきました。小学校時代は歴史学習の導入期ですから、歴史に興味をもつきっかけを作ることが非常に大事なのです。それがうまくできないと、歴史が嫌いになって

しまいますからね。そういう意味で博物館や遺跡を見学することは、きっかけづくりの場として最適だと思います。

子供がもっとも興味をもつのは、自分の町で過去にどんなことがあったかということなのです。横浜市歴史博物館には各区の歴史のビデオもあるそうなので、興味もわくと思います。校外学習として全体で行く機会もあるでしょうし、子供が自分の問題をもって、個人やグループで調べてみようということにもなるでしょう。実物に触れてくるとか、自分で操作してビデオを見てくるとか、またわからないことは学芸員さんに聞いてくるというような学習の場になるといいですね。先生方にとっても、指導に役立つ資料館となるでしょう。

(談)

収集資料の紹介(1)

武蔵国絵図

(写真1) 武蔵国絵図(全体)



横浜市歴史博物館では、博物館活動の一つとして資料の収集を行っています。収集にあたっては、(1)交通・交易に関する資料、(2)横浜の景観(姿)に関する資料、(3)庶民の信仰と文化に関する資料、について特に力を注いでいます。今後、準備ニュースの紙面を利用して収集した資料を順次紹介していきたいと考えています。

今回は、江戸時代に作成された武蔵国絵図を取り上げます。武蔵国とは、古代律令制から明治初頭の廃藩置県にいたるまで用いられた行政区画の名称で、ほぼ現在の神奈川県川崎市と横浜市、東京都、埼玉県を含んでいます。武蔵国は二十三日の郡から構成されていましたが、このうち横浜市の村々は久良岐郡・都筑郡・橋樹郡に含まれています(この他にも相模国鎌倉郡に属していた村々があります)。

国絵図とは、一国全体を一枚の絵図に書き記したもので、江戸幕府の作成した国絵図が特に有名ですが、それ以外にも民間で作成されたものが多数確認されています。横浜市歴史博物館でも何枚か収蔵していますが、ここで紹介する武蔵国絵図は、その中でも大きなもので、約二メートル四方の大きさです。

写真(1)は武蔵国絵図の全体を示したものです。北西に広がる山地・丘陵地帯から南東の平野部を経て東京湾へ流れ込む河川や、北部に点在する湖沼などをみるすることができます。また、江戸を中心に四方に伸びている朱線は、主要な街道をあらわしています。

(写真2) 武蔵国絵図(部分)



写真(2)は、同図のうち久良岐郡・都筑郡・橋樹郡を中心とする部分を拡大したもので、東京湾や都筑郡から久良岐郡へ続く丘陵地帯をみてとることができます。各村の村名は長円形の中に記されています。また、海岸沿いにみられる二重の朱線は東海道で、川崎・神奈川・保土ヶ谷の各宿場は、茶色で着色されています。東京湾をみると、海路が朱線で記されており、神奈川湊と六浦湊に海路が伸びています。村名に若干誤記があったり、神奈川町と青木町の間から海が入り込んでいたりするなど、記述に多少の誤りもみられますが、全体として江戸時代の横浜の市域を知る上で興味深い資料といえます。企画展などの機会を通じて、公開していきたいと考えています。

歴史博物館の名称決まる

平成6年2月22日から3月18日まで行われた平成6年第1回市会において、横浜市歴史博物館条例が議決され、今まで仮称であった歴史博物館の名称が「横浜市歴史博物館」と正式に決まりました。

今後は「横浜市歴史博物館」の名称を、市民の皆様や他の博物館の方々に知っていただくよう努力していきたいと考えています。

なお、開館日も平成7年1月(予定)と決まりました。